

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2771300288		
法人名	社会医療法人慈薫会		
事業所名	グループホームひまわり河崎		
所在地	大阪府貝塚市水間183番地		
自己評価作成日	平成 30年 11月 1日	評価結果市町村受理日	平成 31年 1月 15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kan=true&jiryoosyoCd=2771300288-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 30年 11月 30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく広いリビングの窓から、四季折々の風景を眺めることができ穏やかに過ごせる。法人の病院と隣接しているので医療連携がとれ、利用者・家族が安心されている。デイケアや小規模多機能型居宅介護がホームの1階にあり、地域の方と顔なじみになり話ができる。認知症対応型通所介護の事業も行い、グループホームの特性を活かしたデイサービスを提供している。地域にあるリハビリテーション大学と園芸療法交流会を実施し、学生の認知症理解に協力している。

地域に根ざして貢献する社会医療法人が運営するグループホームで小規模多機能型居宅介護施設と認知症対応型通所介護を併設し、隣接して同一法人の病院があります。日本のグループホームのモデル事業として開設され、20年余りが経過した草分け的存在で、トップランナーとしての気概と実力の備わったホームです。リビング兼食堂は死角がなく、広くて明るく開放的で、イベントも可能で、円形の建物の大きな窓からは季節の花のあるベランダや周辺の田園風景が見渡せ、やすらぎを感じることができます。職員が利用者の意思を尊重しながら笑顔で優しく接し、家族とも協力して利用者に対応していることに、家族は高い評価を与えています。利用者は優しい職員に囲まれ、美味しい食事を楽しみ、医療的な心配もなく、落ち着いた雰囲気の中でゆったりと過ごしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が理念の意義や役割を十分に理解し、毎月具体的に職員の目標を設定している。日頃から職員に助言・指示を行いケアの向上に努めている。	「利用者様に、家庭的な環境で安心と尊厳のある生活を送っていただくため、利用者皆様の残された能力の活用・維持を図り、楽しく・充実した生活が営まれるよう努力いたします」をホームの理念とし、具体的には毎月の「グループホーム目標」を定め、その実現に努力しています。定例のショートミーティングや毎日の業務を通じて方針を共有し、利用者がその人らしく安心して楽しく生活を続けられるよう、家族や地域の人たちと共に支えています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	戸外の散歩時に挨拶したり、地域の行事に参加するように努めている。 ボランティアの方々にも定期的に来ていただいている。 リハビリテーション大学との園芸療法交流会の実施で学生の認知症理解に協力している。	地域との交流には積極的に参加しています。近くのリハビリ大学の学生は年に12回ホームを訪問し、梅ジュース・フラワーアレンジメント・押し花クラフト等、一緒に作りながら交流しています。中学生の職業体験も受け入れています。歌や二胡・アコーディオン演奏等の訪問も利用者の楽しみのひとつです。市の委託事業で市内のカフェで介護相談にも応じています。公民館の文化協会展では、お茶の先生や地域の方とも交流をしています。管理者は地域の認知症サポーター養成講座で講師を務め、認知症理解に協力しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェ(オレンジカフェ)を毎月2回開催し、講演や相談を通じて、地域住民の認知症の理解に努めている。 相談者には様々な情報を提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者へのサービス状況などを報告し話し合っている。 市職員・民生委員の方より、意見や助言をいただき、それを参考にケアの向上に活かすようにしている。 家族や本人が参加され意見を述べられることもある。	民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、利用者家族の参加で定期的に開催しています。会議では主に、ホームの状況や月間行事説明、研修実施報告、利用者状況、今月の職員目標等を報告・説明し、参加者から評価や助言を得て、ホームの運営に活かしています。気軽に話ができる雰囲気で行われ、新しくできたカフェの情報ももらっています。運営推進会議の記録は、スタッフや家族にも配布し、情報を共有しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から高齢介護課の窓口や電話で質問し、相互理解の上サービスに取り組んでいる。	管理者は、市の担当職員と報告や相談、情報交換に努め、協力関係を築いています。また管理者は、市の介護保険事業者連絡会や市のグループホーム部会、近隣の5市1町「認知症相談支援センター」の相談事業に参加しています。また、市の委託事業として「ひまわりカフェ」を当ホームで、「オレンジカフェ」を市内のスーパーの集会所で実施しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律を理解した上で、身体拘束を極力しないケアに取り組んでいる。 2ヶ月ごとに身体的拘束等適正化検討委員会を実施している。	職員は、「身体拘束ゼロ宣言」をし、あらためて「何が身体拘束か」を含め、身体拘束廃止について学び、意識を高めて、身体拘束のない介護を目指しています。1階の出入口扉やエレベーターは施錠されていません。外出の要望がある利用者については、見守りと付き添いで対応しています。また、身体的拘束等適正化検討委員会を2か月毎に実施しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待や身体拘束の研修を行い、常に管理者、全職員が意識を持って注意・観察を行い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を理解し、必要に応じて家族や担当者と連絡を取り合うようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくり丁寧に説明している。 疑問があれば納得されるまで説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。 家族の面会時近況報告し、コミュニケーションを十分とっている。 事業所便りで近況報告している。 運営推進会議後、議事録を家族に送付しホームの状況を理解していただくよう努めている。 問題や相談発生時直ぐに電話にて家族に報告している。 利用者の気持ちを聴き取り、スタッフ間で話し合っている。	意見箱を設置しています。家族の面会時にはその都度声かけして利用者の様子を伝え、意見や要望を聞いています。家族からの要望や意見は、申し送りノートに記載し職員で共有しています。家族には、ホームの状況がわかる運営推進会議の記録や利用者の生活が伝わる写真入りの「ひまわり便り」を送付しています。「ひまわり便り」には、コメント欄を入れて、利用者一人ひとりの様子を書いています。外泊をした利用者の家族には、外泊時の様子についてアンケートをとり、意見や要望を書く欄を設けて、家族の思いを伝えられるようにしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からショートミーティングを行い、職員間でお互い意見交換している。 職員が自由に意見を言える環境作りに取り組んでいる。 職員の意見を聞き、改善すべきところはすぐに相談・改善し質の向上に努めている。	職員は、定例のショートホームミーティングや毎日の業務を通じて業務の改善事項や課題について話し合い、提案し実行しています。管理者は職員が「楽しく笑って介護する」環境づくりを目指すとともに、職員の「介護スキルの向上」のため、研修や資格取得を奨励し、便宜を図っています。また、職員と定期的な面談を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に対応して、向上心が持てるように努めている。 勤務については可能な限り職員の希望を聞いている。 やりがいについては、職員ごとに担当制とし、利用者と密に関われる体制を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・内部研修に積極的に参加できるよう法人が支援している。 勤務体制も配慮している。 内部研修で伝達研修している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会研修や相互研修で交流できる機会が増えている。 市のグループホーム部会に参加している。 他施設を参考にして、自施設を見直しサービスの向上につなげている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の状態観察を行いながら、コミュニケーションを十分にとり、信頼感を持ち安心して過ごせるように努めている。 コミュニケーションがとれない方の場合家族から情報提供してもらい、本人に声かけし、表情などから理解するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や問い合わせの時など、インタビューを大切に心がけている。 家族の要望を詳しく聴き取り、今後のコミュニケーションが図れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から話や現在の状況を十分に聞き取り、必要とされている事を見極めて対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活しているということを念頭におき、出来る事を見守りながら、支えあう関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に行事などは早めに情報提供し行事に参加していただけるように促している。 家族と一緒に過ごす時間を持てるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の事情を踏まえた上で、訪問を受け入れている。 馴染みの場所へは、家族に協力をお願いして支援している。	職員は、利用者がデイにくる友人と会ったり、行きつけのお店に洋服を買に行ったり、公民館での文化協会展に行ったりするのを支援しています。また、家族と通院や外食、美容院に行ったり、盆・正月に帰宅したりする時にも支援して利用者の思いに寄り添い、利用者が大切に思う馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフの見守り・援助を通じて、日常生活を互いに協力し支えあえるように支援している。 利用者同士の関係で、席やくつろぎの場所を考慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後(隣接の医療機関)に入院された方なども訪問を受け入れている。 家族からの相談も受け入れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報シートなどを参考にして、本人の気持ち・思いを聞き、意向に添えるよう努力している。 本人からの聞き取りが難しい場合は、家族の協力をお願いしている。	ホームでの暮らしのなかで、利用者から聞き取ったり、表情やしぐさから汲み取った希望や思いを「申し送りノート」に書き込んでいますが、有効利用ができていません。今後、「私の姿と気持ちシート」を使って、研修も兼ね家族と職員で利用者の人物像を描き上げることを試みる予定です。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報をもとにしているが、日々の関わりの中で職員が本人・家族からの情報を聴き取り積み重ねている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の援助及び日々の観察とコミュニケーションで把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人または家族と話し合い、ケアカンファレンスを行い、職員間で情報交換し、介護計画を作成している。	介護計画は6か月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。計画作成担当者は定期的に個別介護計画のモニタリングをして評価し、カンファレンスで報告し、家族にも説明して介護計画の見直しにつなげています。ただ、現在使用中の介護計画書は暮らしと心身の状態について18項目もあり、介護計画の職員への周知徹底や援助内容のモニタリングの記録の取り方に工夫の余地があります。	介護計画については重点項目のみに対象を絞ることを検討されてはいかがでしょうか。また、介護計画の個別の援助項目の職員への周知徹底の仕方や、職員による日々のモニタリング記録の取り方の改善をされてはいかがでしょうか。徹底策の一例として、利用者毎の日報用紙に介護計画の援助内容を盛り込み、実践内容を計画と関連付けて日々記録するなどの方法を検討されてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、夜勤者からの情報提供など、気づきは申し送り時に伝えている。ショートミーティングとカンファレンスで意見交換し随時見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じ、訪問診療・訪問看護などを利用し必要な支援ができるようにしている。 必要な方には病院への通院リハビリの援助を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々や茶道の先生に来ていただき、生活に変化をつけ楽しみを感じられるように支援している。 近隣の大学から学生が来て、園芸療法に取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	情報提供している。 病院に併設の利点と連携を活かし、初診の場合は家族と共に付き添い、希望を聞いている。 利用者の状態に応じて、医療機関を紹介し家族に受診依頼している。	家族の同意を得て、利用者は協力医療機関の医師に定期受診しています。また、必要があればその都度受診しています。職員として常駐している看護師が健康管理を行っています。以前からのかかりつけ医やその他の診療科目について受診する利用者には、家族の同行が原則ですが、必要の都度職員が通院介助を行っています。協力医療機関と連携し、夜間や緊急時の対応についても万全な体制を整備しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置有り、気づき・異常の早期発見などができている。 介護職からも看護師に報告し相互で情報交換し、適切な判断・指示のもと支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	担当医、病院の看護師、ケースワーカー、栄養科、リハビリテーション科などと日頃より連携をとり、情報交換し早期発見できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の面会時に話し合っている。 必要時は医師の診察時に、家族に病状説明を聴いていただき、相談を受けるようにしている。 看取りに関する指針を作成し入所時に家族に説明している。 訪問診療・訪問看護を利用し、ホームの看取りが可能なことを説明している。	ホームは看取り実施の方針を持ち、実績もあります。利用者が重度化しても可能な限りホームでの生活が継続できるよう、サービス開始の早い段階から利用者や家族の意向を聞き、方針の共有を図っています。利用者の状況の変化に合わせてその都度、利用者や家族、医師と話し合い、対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルで各自学習する。 不明な点は看護師に確認し、各自対応できるようにしている。 法人の病院内の研修会に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の病院との緊急連絡体制を整備している。 避難訓練を実施している。 非常持ち出し袋を準備している。 法人内施設からの緊急時一時避難を受け入れている。	併設施設と合同で消防署の承認のもと、年2回の火災・災害避難訓練を実施しています。行政から災害時の避難拠点の指定を受けています。災害にそなえ、食料品と水の備蓄をしています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より個人情報や人格の尊厳に留意して関わっている。 職員の声のかけ方に注意している。	職員の言葉かけや態度は明るく、利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシー、尊厳を損ねないよう配慮して、丁寧でやさしく笑顔で接しています。職員は法人の倫理綱領を遵守し、人権や接遇、個人情報の研修を受け、意識の向上に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	その人に合わせて、わかりやすい表現(ことば)で伝える。 個々によく聞こえるよう耳元で説明し、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れはあるが、利用者それぞれの生活リズムで過ごせるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装を支援している。 行事や外出時は一緒に考えている。 自分で衣類を選んで購入されたい利用者とは、買い物に出かけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の利用者ができることを見つけて手伝っていただき、見守りながら支援している。 昼食作りを週2回実施し、準備や片づけを職員と一緒にしている。	ご飯と汁物はホームで調理し、副菜やおやつは隣接する病院から、利用者の嚥下状態に合わせて調理され運ばれてきます。週に2回ホームで副菜を作っています。職員は、盛り付けの手伝いや食材の下処理など、利用者に見つけて手伝ってもらっています。トマト嫌いな利用者にはトマトを抜くなどして、食事を楽しめるようにしています。職員は、利用者に声かけしながら一緒に食事をしています。梅ジュースや梅ジャムは一緒に作りました。毎週のバナナジュースは利用者と一緒に作っています。ホットケーキを焼いて楽しむこともあります。近くにスーパーがあるので今後買い物も一緒に行く予定です。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の利用者の状況に応じて支援している。 とろみを使用したり、食事形態を変えている。 食欲がない場合には、好みの物で食欲が向上するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後と寝る前の歯磨きやうがい、声かけ見守りで実施している。 自分でできない利用者には、口腔ケア介助している。 清潔にして感染予防に努めている。 必要時歯科の往診をうけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけと定時の誘導など、一人一人の排泄パターンを把握して援助している。 プライバシーに配慮しながら、トイレで排泄ができるよう習慣づけ支援している。 トイレでの排泄を希望される方には、二人介助するなど希望にそえるよう努めている。 必要な場合、ポータブルトイレも組み合わせ支援している。	排泄記録を取り、利用者一人ひとりの排泄のパターンや習慣を把握し、しぐさや表情から状況を判断し、声かけや誘導、見守りにより大半の利用者がトイレで排泄ができていて、半数近くの利用者が布パンツを使用しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認とケアチェック表を活用している。 個々の排便習慣に合わせて声かけしている。 水分補給に配慮している。 受診時に医師と相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調等を確認し、希望に応じ入浴できるようにしている。 機械浴も利用している。 仲の良い利用者同士の入浴を勧めるなど入浴拒否を減らすように努めている。	平均して週3回の入浴を楽しんでいます。デイサービスの機械浴を利用して入浴する利用者もいます。入浴を好まない利用者にはさまざまな工夫で対応したり、友人と一緒に入ってもらうことで入浴する利用者もいます。利用者はゆず湯などの季節の行事風呂も楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠できるように、昼夜のめりはりをつけるように過ごしている。 昼食後は自室で休息・仮眠など、自由に過ごし生活に変化をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋で内容を確認している。 個別の服薬確認(ケアチェック表)と援助をしている。 個々の薬の内容をスタッフがすぐに確認できるように、薬ファイルを作成している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が出来ること、したいこと(家事など)と一緒にしていただき、役割での達成感を感じてもらえるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を兼ねて施設周辺の花を見に出かけている。 家族の協力を得て、買い物や外食で少し遠くに外出している。 毎月地域のカフェに出かけ、交流している。	利用者は近隣の散歩や初詣・花見・公民館の文化協会展・オレンジカフェに行ったり、系列のグループホームのフラワーパーティに参加したり、洋服の買い物等出かけています。毎月の地域のカフェには利用者が2～3名ずつ交代で行っています。通院や外食、美容院へ行く、法事に出席、盆と正月に帰宅するなど家族の協力を得ながら外出支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて、お小遣いを持っていただくが、家族からお金を預かりいつでも使えるようにしている。 隣接する病院の売店に、職員と一緒に買い物に行くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば、いつでも電話ができるようにしている。 手紙も出せるように援助している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備に心がけている。 季節感、生活感が感じられるように心がけている。 室内の飾り、絵なども利用者と一緒に制作し、季節ごとに変えて楽しんでいる。	円形の建物の大きな窓からは季節の花のあるベランダや周辺の田園風景が見渡せ、やすらぎを感じることができます。死角がなく、広くて明るく開放的で、イベントも可能なリビング兼食堂です。リビングには立派な絵画、生花があり、壁一杯に季節感のある風物の手芸作品が貼られています。また、複数のソファや椅子が置かれゆったりと過ごせる居場所もあり、居心地の良い共用空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を状況に応じて配置、思い思いに過ごせるようにしている。 車椅子の方でも、ソファでリラックスできるよう援助している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で慣れ親しんだ物を持ち込んで使っている。	花や置物が置かれた出窓があり、ベランダに面しベランダへの出入り口もある洒落た作りの居室は、明るく居心地の良い空間となっています。入口にはリハビリテーション大学の学生と一緒に作った押し花利用の表札が掛かっています。居室には利用者が花や観葉植物、机、椅子、鏡台、化粧品、仏壇、お供えとお茶を供えた家族の写真、ぬいぐるみ、時計、テレビ等を持ち込み、個性的な居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状態に合った役割を声かけ、見守りで支援している。 自分ができること、やりたいと思うことができ、安心・安全に自立した生活ができるようにしている。		